

R 元年 9 月 7 日(土)

テーマ : 看護補助者の活用推進のための看護管理者研修 改訂版 2018

講師 : DVD

ファシリテーター : 小松香世美先生 (ひだか病院)、廣瀬朱実先生 (済生会和歌山病院)、仲澤妙美先生 (和歌山労災病院)、石井千有季先生 (和歌山県立医科大学附属病院)、東田裕子先生 (日本赤十字社和歌山医療センター)、吹田奈津子先生 (日本赤十字社和歌山医療センター)

場所 : 看護研修センター

参加者 : 93 名

午前中は DVD を見ての研修。間に 15 分の小ワーク (前後左右の人との意見交換) 時間が数回あった。

午後からは 3 つの課題から自分の希望を選び、施設の看護補助加算の施設基準が同じような施設の人が集まってグループワーク。

ファシリテーターの方が 6 名、それぞれ 2~3 グループを担当。グループの質問に答えたり、助言した上で、最後はファシリテーターがまとめとして発表してくれた。

ファシリテーターの方は大変だったと思いますが、受講生にとってはディスカッションに集中できたのではないのでしょうか。



午前は DVD を見る講義。

後ではファシリテーターの方も一緒に聞いてくれる。



ファシリテーターの方からの発表。
グループの意見をまとめるだけでなく、他のグループの方にも考えてもらえる話だった。

令和元年9月8日（日）

テーマ：多職種連携による入退院支援

講師：平松瑞子先生 市立吹田市民病院
地域看護専門看護師

場所：看護研修センター

参加者：104名

午前中は座学で、「わが国における社会の動向」から「退院支援とは、退院調整とは」などわかりやすく図表を使いながら講義してくれた。

また、講師自身が作成し看護研究で発表した、「大阪府入退院支援の手引き」を紹介してくれる。これは、現在大阪府で使用しているとのことであった。

午後からは、グループワークで、事例を通して入退院支援の実際を検討した。



午前中の講義風景



午後からは、グループワーク
講師が助言のためにラウンド



グループワーク後は、発表
要点を講師が板書しながら、アドバイスしてくれる

最後に
私たちが行う退院支援とは、看護の本質そのもの
とまとめてくれる。

R 元年 9 月 22 日(日)

テーマ : 新人ナースのためのフィジカルアセスメント
—事例から学ぶフィジカルアセスメント—

講師 : 井上潤先生 南和歌山医療センター
急性・重症患者看護専門看護師

場所 : ビッグ U (田辺市)

参加者 : 91 名

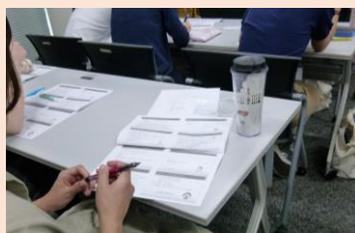
フィジカルアセスメントについて、事例を通して個人で考えたり・隣の人と話し合いをしたりして進めてくれた。途中、講師がラウンドしながら、観察ポイントについてアドバイスをしていていた。

アンケートには、重症患者および急変時の観察点がわかりやすかったと回答している人がいた。

また、鳥の肺を使った動画を見ながら、呼吸音について説明してくれる。
とてもわかりやすい動画であった。



観察ポイントを隣の人と話し合い
先生がラウンドしながらアドバイ
スしてくれる



資料の中に観察ポイントを、
びっしり書き込んでいた



最後に発表！

R 元年 9 月 26・27 日（木・金）

テ ー マ : 認知症高齢者の看護実践に必要な知識

インターネット配信研修（オンデマンド）

ファシリテーター : 米田恭子先生 日本赤十字社和歌山医療センター
認知症看護認定看護師

場 所 : 看護研修センター

参 加 者 : 81 名

9:30~16:30 で 2 日間の研修だった。皆さんが日々認知症の方との関わりの中で悩み・迷いながら接していることが多いようで、細かくメモをとりながら研修を受けていた。演習中はファシリテーターの方に質問する方もあった。受講生が質問用紙に書いた内容を最後にファシリテーターに回答してもらい共有した。対応事例を含めた説明だったので、受講生はわかりやすかったとの感想が多かった。



演習は非常に活発で、ラウンド中のファシリテーターへの質問も多かった



各日の最後に受講生からの質問に回答してくれる

長時間の研修会、お疲れ様でした

R 元年 9 月 28 日(土)

テーマ : 自己成長と他者育成のヒントを学ぶ
ーコンピテンシー・モデルを用いてー

講師 : 宗村美江子先生 虎の門病院
副院長・看護部長

場所 : 看護研修センター

参加者 : 96 名

午前は講義、午後からはグループワークで事例を通してコンピテンシーを考えるように進めてくれた。

講義を聞くだけでは「わかりにくい…、難しい…」という表情をしていた。しかし、午後から実際の事例を通してグループワークをすることで、表情も明るくなり、笑いがあったりして活発なディスカッションとなった。



講義中

こちらの資料は
指示があるまで
見ないでください

午後からの資料の表紙
「今から何が始まる
の?」とドキドキ・・・



グループワーク中、ラウンド
してワークの進行具合を見たり、
助言したり、一緒に「うんうん」と
頷いたりしてくれた